
平行世界と勇者の話

塩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平行世界と勇者の話

【Nコード】

N2291X

【作者名】

塩

【あらすじ】

もっどーでもいってノリで

吹っ切れた

企画

着地点・・・なし

序章 0 - 0

『今考えればあの時からおかしかったのだ』
それは、半袖から長袖に換え始めた秋の日のこと。

僕はいつもより早く床についた。

ふと目が覚めると、目の前に自分の身体があった。

これが俗に言う幽体離脱か。

ということは、戻らないと死ぬのか

窓の外から光りが入ってきた。

好奇心に負け僕は窓をすり抜けた。

窓の外にいたその人は光の原因と思われるLEDライトをしまった

：?????

いよーす。

：僕

…誰？

：?????

名前か？うーん覚えてないな

：僕

何故？

：?????

何年生きてると思ってんの

：僕

何年生きてるんですか？

：?????

何年だったかなあ…

：僕

…知らないんだ

：?????

しらねーよ。

：僕

住所は？

：?????

ないよ

：僕

職業は？

：?????

神様。

：僕

…住所不定無職のおじさんか。

：自称神様

ほんとに神だつて

：僕

そついや浮いてるね

ここは二階である
ベランダなどない

：神様（仮）

ね、すごいでしょ

：僕

その神様が何のようですか？

：神様（仮）

あつ、そうそう

いきなりだけど君死んだみたい

：僕

そう。

んでどうした

：神様（仮）

少しは動揺しろよ

まあいいや。

今、君は死んで、魂だけの状態です。

この状態ならパラレルワールドに行けます。

そこで、君に仕事の依頼。

パラレルワールドを荒らしている魔王を倒して欲しいんです。

：僕

RPGみたいなの？

：神（仮）

まあそうだね。

：僕

楽しそうだね、やるよ。

：神（仮）

じゃあ頑張って

パーティ

目を覚ますと美しい世界が広がっていた。

例えるなら、川の向こうの花畑。

遠くには湖となだらかな山脈

「貴様何者だ」

鋭い声に振り向くと小さめだが綺麗な城が建っていた。

まずは両手をあげて近づく。

「もう一度聞こう何者だ」

門の前には、長銃を持った門番が、2人いた。

(何者かと聞かれてもねえ……)

と、その時

「宅配便です。魔王さまにお米が届いておりますー。」

「もうそんな時期か。よし、入れ。」

「ありがとうございます。」

(まで。魔王の城っていきなりラスボス？クライマックスなの？何

すりゃいいの?)

ペリカン便は城の門をくぐった。

《ビービービービービー》

「貴様、何を持っている」

門番の長銃が、首を捕らえる寸前で、飛脚はそのまま後ろに飛んだ。

空中でふところから二丁の拳銃を抜き門番の2人に計4発打ち込んだ。

「うわあああ」

両足首を打たれた門番たちはその場に倒れ、もがいていた。

「なあ、君。君も来いよ」

ペリカンが言ってきた。

取り敢えず着いて(憑いて?)くことにしよう。

城の中はやはり綺麗だった。

「あ、そついや名前言ってなかったな。
俺は河原海世だ、よろしく。」

「ぼくは……」

名前を言い掛けたとき通路奥の階段に人影が。

「ああ。なんだ、魔王か」

「遅いよ河原」

魔王は河原の肩をペチペチ叩きながら言った。

「……え？」

「言っでなかつたか。幼なじみのマオだ」

「魔王ってよんでね」

河原が「女みたいな名前がコンプレックスらしい」と耳元で囁いた。

「魔王さんの職業は何ですか」

「魔法使いだよ」魔王がいった。「ちなみに河原は幻術使い」

「へえ、てことはさっきのは……」

「幻覚だ。発動してから石を投げた。彼らは自分の想像で生じた痛みに苦しんでる」

うわぁ…ある意味最強だわ。敵にしたくない。

と言っか……

「あの、すみません」

「ん？どした？」

「すこし、付き合ってもらえませんか？」

「いいよ、暇だし」

よし。とりあえずパーティーができた。

冒険にでも行くんじゃないか

パーティー（後書き）

勇者：主人公

魔術師：魔王

幻術師：河原

元居た世界の神様からメッセージ

お前の意思でパラレルワールドを自由に飛べるようにした

せいぜい頑張ってくれ

そうそう、武器の類は現地調達な

てきとーに木の棒でもいいし

お高い刀でもいいぞ

あとただの武器じゃつまらないしヒロインが登場しない気もするから武器に意思を持たせた。可愛がるんだぞ。

それじゃーな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2291x/>

平行世界と勇者の話

2011年12月17日01時47分発行